

海外短期留学報告書

理学研究科 高分子科学専攻 超分子科学研究室 D2 宮脇 敦久

派遣先: Laboratory of Macromolecular and Organic Chemistry, Eindhoven University of Technology (TU/e)

期間: 2008.2.25 - 3.11

BMCインテグレートッド大学院理学教育プログラムにより、私はアイントフォーヴェン工科大学(オランダ)へ客員研究員として2週間滞在させていただきました。研究テーマは「Supramolecular Docking System」であり、Meijer研究室で広く超分子構造体の構成要素として広く用いられているUpy(ureido-Pyrimidinone)と当研究室で用いている cyclodextrin を融合させて、超分子構造体の利点を最大限に活用させた、蛍光分子の除方性システムの構築に取り組みました。

海外での研究生活は私自身にとって初めての経験でしたが、滞在先の研究室ではMeijer先生はじめ、ポスドクや博士課程の学生が非常に熱心かつ丁寧に接して下さり、何一つ不自由を感じず、楽しく研究生活を行うことができました。研究室のシステムは日本とは全く異なっており、教官、ポスドク、学生がお互いをニックネームで呼び合う完全にフラットなシステムでした。(初日にMeijer先生からMeijerではなく Bertと呼ぶことを指摘されました)

研究に関しては経験やポジションに関係なく、自由に持論を展開できる様子に非常に感銘を受けました。後日、学生にこのシステムについて伺ったところ、オランダの大学では学生も職員として扱われ、給料も支給されているため、科学者として持論を主張して研究に取り組むのは当然の事とされていることが分かりました。このようなシステムは日本における縦関係とは異なるため、当初私にとっては非常に違和感を感じるものでしたが、慣れるに従い報告会等の発表の場を非常に楽しいものと感じられるようになりました。

取り組んでいる事は同じであるがそのアプローチが国によって全く異なり、それぞれの国ではその方法が当たり前とされている。それを身をもって感じる事ができ、非常に興味深い経験ができたと感じています。

最後に、このような機会を与えてくださったBMCインテグレートッド大学院理学教育、E.W.Meijer研究室の方々、そして様々な面でお世話いただきました皆様に心より感謝致します。



TU/e 本部



Kinderdijkの風車



駅前の公衆トイレ